

日経平均株価

3万2759円23銭

▼131円93銭(前日比)

TOPIX

2290.61

▼4.53(前日比)

2023

7/31

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



## 「2024年問題」対応急務

### 建設と物流の人材不足を救え!



人手不足は更に深刻化する

建設業界は、人手不足が深刻化している。建設現場での作業は、人手不足が深刻化している。建設現場での作業は、人手不足が深刻化している。

建設現場での作業は、人手不足が深刻化している。建設現場での作業は、人手不足が深刻化している。

「2024年問題」では、従業員の時間外労働の上限は月45時間、年360時間原則となる。1人あたりの労働時間が削減となることから、従来の業務をより多くの人数でこなさなくてはならぬ。待ったなしだ。因みに直近では2025年に開催予定の大阪・関西万博のパビリオン建設が進んでいないことが問題となっている。これは建設費が高騰していること、資材高、人手不足、建設現場での作業は、人手不足が深刻化している。

建設現場での作業は、人手不足が深刻化している。建設現場での作業は、人手不足が深刻化している。

### 派遣やJR、内航海運など

2024年4月から時間外労働をめぐる上限規制が厳格化される、いわゆる「2024年問題」への対応に建設関連と物流業界が苦慮している。コロナ禍から脱却し経済活動が活発化する中で両業界とも受注は拡大の一途だが、その反面、就業者の高齢化や就業人数の減少が進み、長時間労働が常態化する中で人材不足が深刻化している。抜本的な対応を行わないと経済に悪影響を及ぼすのは確実で、株式市場でも建設と物流の人材不足をサポートする企業が注目されそうだ。

人材会社注目が目され

日経平均の日足チャート

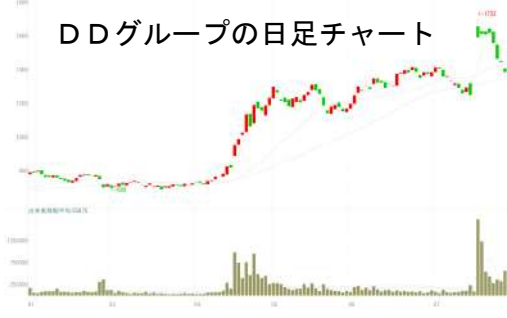


インフラ保守が伸びている。  
ナレルグループ(9163)：7月21日にグロース上場、建設技術者派遣ITエンジニア派遣を手がける。  
一方、物流ではドライバーの人員増は容易ではなく、JR東日本(9020)やJR西日本(9021)などのJR各社や栗林商船(9171)などの内航海運などがモーターシフト関連として注目されよう。

7月第3週の動意銘柄

DDグループがS高

1Q黒字浮上し通期上方修正



連休明け18日、DDグループ(3073)がストップ高。24年2月期第1四半期の連結決算は、営業損益11億400万円の黒字(前年同期比3億3700万円の赤字)に浮上、通期予想を15億2400万円の黒字から22億5000万円の黒字(前期比4.8倍)に上方修正した。人流回復により

**ムゲンエス上方修正増配**  
 19日、ムゲンエステート(3299)がストップ高。年初来高値を更新した。18日の取引終了後、23年12月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で45億6500万円から46億3900万円(前期比7%増)へ、

4年2月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で970億円から1000億円(前期比19.5%増)へ、営業利益で20億円から30億円(同96.9%増)へ上方修正、期末配当を10円から15円(前年同期15円)へ引き上げた。欧米、アジアを中心に海外での販売が好調に推移している。

営業利益で36億2500万円から46億3200万円(同55.6%増)へ上方修正、期末一括配当を32円から43円(前期20円)へ引き上げた。不動産買取再販の好調が継続された。

**HIOKIは出尽くし感**  
 HIOKI(6866)が急落。18日引け後に発表した23年12月期第2四半期累計の連結決算は、経常利益47億3100万円(前年同期比39.1%増)と従来予想の40億4000万円を上回り、大幅増益で着地した。ただ、計測器需要拡大による好業績は事前に観測されていたようで、当面の材料出尽くし感から売りが優勢になった。通期計画の80億8000万円(前期比10.9%増)に対する2Qの進捗率は58.6%に達している。

**日産自が大大幅続伸**  
 日産自動車(7201)が大大幅続伸。ステイブレン・マー最高財務責任者(CFO)は株主還元の方針について「キャッシュの使い道で最優先課題は株主還元のみ目立った。」と述べた。配当性向を30%に戻したい」と述べたと伝わった。為替がドル円、ユーロ円ともに円安に振れたことも自動車株には追い風で、マツダ(7261)や三菱自動車工業(7211)などの上昇も目立った。

飲食・アミューズメント事業の既存店売上高が予想以上に拡大、原価率や販管費の抑制も進んでいる。

**古野電増額で97%増益**  
 古野電気(6814)が急伸、年初来高値を更新した。2

**テラスカイ33%減益**  
 テラスカイ(3915)が大大幅続落。24年2月期第1四半期の連結営業利益1億円(前年同期比32.8%減)と大幅減益で着地、通期予想1億1000万円(前期比2.2倍)の未達成が警戒された。クラウドサービスが伸びているが、先行投資が収益を圧迫。

**正直いいさんの株で大判小判**  
 前週の東京市場は中銀ウイークで不安定でしたが、反発しました。日経平均は前の週から454円上昇しています。海外報道で日銀金融政策への警戒感が後退したことから週明け24日は大幅高、25、26日は様子見に小幅に続落しました。通り0.2%の利上げが決められたものの、ともあつて応で、27

**チェックした好決算銘柄狙う**  
 乱高下しました。週末2日銀会合では、の長期金利上昇、大規模緩和政策行われることか冷静で押し目買いの強さも確認できました。週明けは底堅く堅調な展開が予想され、チェックした好決算銘柄を積極的に狙う考えです。花咲翁



# クオリップスはS高

## 心筋細胞シート移植経過順調



を九州で初めて行っ  
た九州大学が会見を  
開き、経過が順調な  
ことを報告したと伝  
わった。同社は大阪  
大学発再生医療ベン  
チャーでヒトiPS  
細胞（人工多能性幹  
細胞）由来の心筋細

20日、クオリップス（4894）が急反発、ストップ高まで買われた。iPS細胞による「心筋細胞シート」を移植する手術

週末21日、ニデック（6594）が急伸。24年3月期の第1四半期決算は、連結営業利益で前年同期比347%増の61億5200万円となった。車載製品

# ニデック 35% 営業増益

半導体関連株軒並み安  
アドバンテスト（6857）やレーザテック（6920）、東京エレクトロン（8035）など半導体関連株が軒並み安。19日のSOX指数（フライデルファイア半導体株指数）の下落に加えてオランダの半導体装置大手であるASMLの株価が急落したことが嫌気された。

細胞シートなどを開発している。手術はシートを開発した大阪大学を中心とした研究グループが臨床試験を進めており、2年以内に実用化をめざすという。

グループでEVトラクションモータ事業が黒字化したことに加えて、家電・産業用製品グループにおいて、四半期連結会計期間の過去最高を達成した。

転嫁を更に進めたことや、素材や機能など付加価値を高めたNB商品の強化に加え、アセアン生産比率を高め、仕入原価の低減を図った。

クロスプラス営業益6.6倍  
クロスプラス（3320）がストップ高。24年1月期の業績予想について、連結売上高で580億円から590億円（前期比34%増）へ、営業利益で3億円から12億円（同6.6倍）へ上方修正、年間配当を14円から24円（前期12円）へ引き上げた。前期から継続して仕入原価上昇に対応する価格

# 株式会社 大森屋



2023年  
秋冬  
新商品

いつもの料理にかけるだけで、劇的味変の万能ふりかけ！  
4つのフレーバーが無限のおいしさを引き出す！

## ＼ ザク食感の変 /

**バジルナッツ**

鶏肉や玉ねぎの旨味＋アーモンドの食感＋バジル・チーズ・オリーブ油のアクセントを加味。

**ガーリックペッパー**

牛肉や玉ねぎの旨味＋フライドガーリックの食感＋ブラックペッパーのアクセントを加味。

**アーモンド醤油**

かつおや玉ねぎの旨味＋アーモンドの食感＋ゴマ油・唐辛子のアクセントを加味。

**旨辛エビ**

小エビや玉ねぎの旨味＋オニオンフレーク・小粒あられの食感＋ピリツとした辛さと数種のスパイスなどのアジアンテイストを加味。

ごはんだけでなく、肉、魚、パスタ、サラダにかけるだけで、おいしさ&食感UP!

# 半導体関連下げ目立つ

## SOX大幅安でTSMC減額

21日、東京エレ

クトロン(8035)

やアドバンテスト

(6857)、レーザ

ーテック(6920)、

ソシオネクスト(6

526)など半導体

関連の下げが目立っ

た。米国市場でSO

X指数が3・6%安

と大幅に下落、台湾

TSMCの4〜6月

期決算が四半期ベ

スで約4年ぶりの減

収減益となり、通期

の売上高見通しを下

方修正したこともネ

ガティブ材料になっ

た。

### ゲンキー収益上振れ

Genkyo Dr

ug Stores

(9267)が急反発。

23年6月期の業績

予想について、連結

営業利益で58億円

から67億1000

万円(前の期比18

2%増)へ上方修正

した。既存店の売上高が想定以上に伸長した。

### 公開価格5.6%下回る

ナレグルの初値

ナレグルグループ

(9163)が東証

グロース市場に新規

上場、公開価格26

90円を5・58%

下回る2540円で

初値が生まれた。建

設技術者、ITエン

ジニア派遣・システ

ムエンジニアリング

サービスなどを行う。

## 転ばぬ先のテクニカル

### 日銀、政策変更へ

先週の東京株式市場は反発しましたが、週間の上下幅は901円と値動きの荒い一週間でした。

日経平均は3万3000円に接近する場面もありましたが、週末の日銀金融政策決定会合でイールドカーブコントロールの修正を発表し、10年債の変動幅を±0.5%に引き上げると同時に、物価見通しを改め2023年度の生鮮食品を除くベースで2.5%へ上方修正しました。この会合結果を受けたマーケットは円高・債券安・株安と反応し、3万2037円まで急落する場面もありました。

日本の金融政策が徐々にでも正常化への道を歩むことは好ましいことです。デフレ相場からインフレ相場へと進展していくことが望まれます。足元は需給バランスが悪化しており調整局面もあるでしょうが、基本的に押し目は丹念に拾うことで報われるものと思われ

日々勇太郎



## 7月第4週の動意銘柄

へ上方修正した。主原料の鉄スクラップの購入単価が想定を下回って推移した。

### 銀行下落率トップ

三菱UFJファイ

ンシャル・グルー

プ(8306)などメ

ガバンクや七十七

行(8341)をは

じめとした地銀を

含め銀行株が軟調、

上場33業種中、銀

行セクターは下落

率トップになった。日

拡大期待が後退した。公開価格5.6%下回る

トライトの初値

トライト(916

4)が東証グロース

市場に新規上場、公

開価格1200円を

5・6%下回る11

33円で初値が生ま

れた。人材サービ

スとデジタルソリ

ューションサービ

スを中心としたグ

ループ会社

の経営管理と付帯

## 東製鐵大幅7日続伸

### 原料単価下落で利益上方修正

週明け24日、東製鐵(5423)が大幅に7日続伸。24年3月期の業績予想について、営業利益で従来予想の300億

円から350億

円(前期比8・0%減)

金融政策決定会合で緩和政策の現状維持を決める可能性が高いとの報道を受け、売りが優勢になった。海外経済や賃金上昇の持続性が不透明で物価目標達成への確信が持たず、イールド・カーブ・コントロール(YCC)の枠組みを維持、10年金利の変動幅も上下0・5%で据え置かれるよう。金利上昇による利ザヤの

25日、三菱自動車工業(7211)が大幅高で年初来高値更新。前日取引時間中に23年3月期通期の連結業績予想について、営業利益を1500億

円(前期比10・8%

減)に上方修正したこ

とが引き続き好感さ

れており、1ドル14

1円30銭台まで進

んだ円安に加え、価

格・販売車種構成の

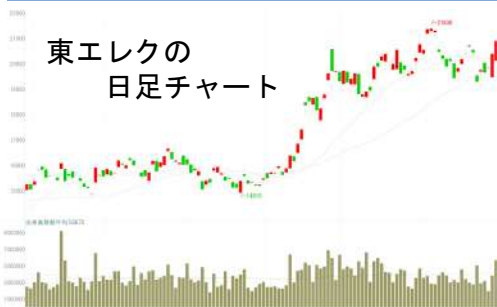
改善などから一段の

上振れに期待が高ま

った。

った。

った。



# ～決算情報～

## 日本精線

### 第1四半期45%営業減益 通期予想据置き年210円配当継続

日本精線（5659）の24年3月期第1四半期の連結決算は、売上高108億1200万円（前年同期比11.5%減）、営業利益9億円（同44.8%減）、最終利益6億9200万円（同41.2%減）で着地した。

太陽光発電パネルなどの製造プロセス向け極細線は好調が続いたものの、流通在庫調整によりステンレス鋼線の販売量が減少し操業度損も増加、収益の牽引役だった半導体関連業界向け超精密ガスフィルターの受注減少により、減収減益を余儀なくされた。

通期は売上高475億円（前期比3.2%減）、営業利益38億円（同9.1%減）、最終利益26億6000万円（同13.8%減）と従来予想を据え置いた。年間配当は210円を継続。

## カプコン

### 1Qは99.4%営業増益 グローバル販売本数大きく伸びる

カプコン（9697）の24年3月期の第1四半期（4月～6月）決算は連結売上高で438億5800万円（前年同期比73.8%増）、営業利益で240億4700万円（同99.4%増）と大幅な増収増益で着地した。

主力シリーズの大型新作である「ストリートファイター6」の投入や、デジタル販売を通じたリピートタイトルの積極的な販売推進により、グローバルでの販売本数の増加を図った。これにより、家庭用ゲームソフトの販売本数は1350万本と、前年同期の1170万本を上回った。

同時にコンシューマゲーム開発で3DCG制作技術を強みとし同社の大型作品でも制作実績のあるスタジオのソードケインズスタジオ（東京都千代田区）の子会社化を発表した。



EDPの日足チャート

主力製品であるLGD（人工宝石）製造の種結晶の取扱いは、半導体基板と同等に規制対象として改正後の法令に則した輸出許可申請が

## イーディーピー大幅高

### 中東と欧州向けが輸出許可

25日、イーディーピー（779）が大幅高。輸出保留となっていた中東向けと欧州向け基板の輸出許可を得たと発表した。

日本パレット（4690）が急落。24年3月期の第1四半期（4～6月）決算を発表、連結営業利益で前年同期比

## 日本パレット2桁営業減益

26日、ウイルコホールディングス（7831）が急伸。株主優待制度の新設を発表した。10月末現在10単元以上の株主に7000円相当の子会社製品（化粧品）などを贈呈する。

## ウイルコHD優待制度新設

10・5%減の2億1800万円となった。販売売上高は前期実績を下回った。  
公開価格63%上回る  
テクニスコの初値  
テクニスコ（2962）が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格560円を63・2%上回る914円で初値が生まれた。同社は精密加工部品事業（ヒートシンク製品とガラス製品などの製造・販売）を行う。

## SOMPO引上げモータ問題

必要との見解が当局より示されていた。011年から延べ37人がビッグモーターへ出向、出向者数は他損保各社よりも多く、修理部門の出向部長を務めた出向者がいたことも伝わった。ビッグモーターによる保険金不正請求については、損保ジャパンは社外弁護士による調査委員会を設置して調査を行うと発表した。

英和 (9857)

# 今期も過去最高売上高へ DXなど研究開発投資増が追い風

製造用機械・電気機器、造船業界向けに各種センサー

## アジア市場開拓も強化

英和（9857）は工業用計測制御機器、環境計測・分析機器、測定・検査機器、産業機械の分野で、あらゆる産業のハイテク化に貢献する技術総合商社で、単に「物売る商社」ではなく、「提案型セールスエンジニア企業」へと変貌している。

生産性向上や業務効率化を目的としたデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進や2050年のカーボンニュートラル社会の実現に向けた新技術開発のための研究開発投資増は追い風で、EV・CASEに関連する高精度精密測定機器、性能試験機、評価装置などの提案を推進しており、JARI（一般財団法人日本自動車研究所）標準セルを応用した電解セルや試験装置への引き合いも増加している。

の販売が伸長、環境計測・分析機器では社会インフラ向け各種分析計の販売が好調に推移し、コンビナートエリアでの定期修理に伴うリプレイス需要なども取り込み、今24年3月期は連結売上高420億円（前期比1.7%増）、営業利益19億5000万円（同2.9%増）、純利益13億2500万円（同0.5%増）と前期に続き過去最高の売上高を見込む。

日本とアジアの現地法人が連携しながら市場開拓を行う「アジア市場開発ブロック」を新設、アジア地域も強化している。



## 特選銘柄

工業用計測機器では稼働率が高い

テセックの日足チャート



26日、テセック(6337)がストップ高まで買われ年初来高値を更新した。24年3月期の第1四半期(4~6月)決算を発表、連結売上高で前年同期比5.2%増の209億1300万円、営業利益で同20.9%増の5億2000万円と大幅増収増益で着地したことを好感した買いを集めた。半導体製造装置向けのハンドラ(選別装置)やテスター(測定)

## テセックS高で新値

### 第1四半期71%営業増益

定装置)が拡大、受

## カプコン売上利益大幅増

増益で着地した。大型新作「ストリートファイター6」投入やデジタル販売による、グローバルの売り本数が増加。3DCG制作技術が強みのソードケインズをタジオの子会社化を発表したことも好感

27日、カプコン(9697)が急伸。24年3月期の第1四半期決算は、連結売上高4億3850万円(前年同期比7.3%増)、営業利益で24億4700万円(同9.4%増)と大幅な増収増益を記録した。

注高が同78.9%増の26億6200万円と大きく伸び、ユニット生産の垂直統合など能力増強にも取り組んだ。

## 公開価格の2.5倍

エコビスタの初値 前日に東証グロース市場に新規上場したエコビスタ(585)が公開価格1300円の2.5倍となる3300円で初値をつけた。睡眠解析技術を通じた健康状態推移予測AIを開発と開発したAIを実装した「ライプリズムナビ+DR」サービスなど、社課題解決型ソリューションの提供する。

トプロコン(773) 55%営業減益



# 独立系検査会社初の公開

## 自動車向け試験に強み

自動車に搭載されるパワー半導体などは

### クオルテック (9165)



山口友宏社長

信頼性評価事業のメ  
イン顧客は  
自動車メー  
カー向け。

東証グロース市場に新規上場した。信頼性評価事業、微細加工事業、その他事業の3つの柱で事業を展開。信頼性評価事業は自動車メーカーやエレクトロニクスメーカーの半導体や電子部品解析・評価、微細加工はレーザー加工機による微細技術を駆使し、数十ミクロンのパッケージ基盤の加工やサブミクロンのLSIに対応、その他事業は遺伝子検査やメ

### クオルテック本社

耐熱・耐水など様々な厳しい環境でも安定した動作が求められるなかで、製品の故障解析にとどまらず問題解決を含めてワンストップでサービスを提供、1993年1月の創業以来、積み重ねた技術により、大手メーカー系に劣らない信頼性を得て、今回、独立系の検査会社として業界初の上場となる。近年、検査不正などの不祥事により日本のもの作りへの信頼性が薄れつつある。山口友宏社長は「今回の上場により独立系検査会社としての知名度と信頼性を高めて優秀な技術者の増員を図り日本の製造業の巻き返しをサポートしたい」と意欲を見せる。今後、電気自動車(EV)が普及するなかで車載部品の評価試験のニーズは確実に高まることから今回の上場を契機に中長期的な成長が期待されよう。

### 【上場要綱】

- 本社 大阪府堺市堺区三宝町4丁目230番地
- 代表取締役社長 山口友宏
- 公開株数合計 120万5000株
- 公募株式数 25万株
- 売出株数 95万5000株
- 売買単位 100株
- 公募価格 2540円
- 初値 2336円

## 金融株利ざや改善期待

週末28日、三菱UFJフィナンシャル・グループ(8036)などメガバンクを筆頭に金融株が後場から軒並み値を上げた。日銀が金融政策決定会合でイールドカーブ・コントロールの運用を柔軟化することを決定、長期金利の変動幅は上下0.5%を目標とし、10年物国債を対象に実施している連続指し値オペの利回りを0.5%から1.0%に引き上げる想定よりタカ派な内容に利ざや改善



への期待が高まった。

公開価格7.5%下回る

GENDAの初値 GENDA(9166)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1770円を7.5%下回る1637円で初値が生まれた。傘下の複数

公開価格8%下回る

クオルテックの初値

クオルテック(9165)が東証グロース市場に新規上場、公開価格2540円を8%下回る2336円で初値が生まれた。電子部品の不良解析・信頼性試験等の受託、レーザー加工表面処理(めっき)技術を中心とした微細加工などを行う。

# 日本株の優位性継続

## 8月下旬から新しいトレンド

5%のターミナルレートが続いた。同期間株価は上昇を続け、NYダウの上昇率は2007年10月に天井を打つまで30%を超えている。利上げピークアウトが大規模なリターンショックとリセッションにつながったのは記憶に新しい。FRBは、インフレ期待の加速が鎮静化しつつある現況において、利下げ期待によるバランスシートの拡大を伴う資産価格の上昇には最大限の注意を払うであろう。米国金融当局の中立姿勢は、中期のグローバル市場における日本株の優位性継続の背景になると見ている。

### 光世証券

取締役 西川 雅博 氏

注目の中銀ウィークを通過したが、日銀のみにYCCの柔軟運用方針でサプライズがあった。FOMCとECBの0・25ポイントの利上げについては大方の予想通りで市場の反応は限定的だった。パウエル議長は市場とのスムーズなコミュニケーションに成功している。利上げそのものの評価や影響よりサプライズを嫌うFRBの意図が反映していること自体がポジティブ要因だろう。日銀の金融政策については出口戦略への歩みは遅かれ早かれ避けられない。今後も一喜一憂せず穏やかに長く付き合う要件との認識が必要だ。



### 相場展望

利下げ時期はともかく、米欧ともに政策金利（FF金利の誘導目標）が22年ぶりの高水準に到達し、利上げ打ち止めは近いというのがコンセンサスだろう。当局のけん制がなければ、利下げ期待が先行して株価は上昇しやすい局面にある。2006年6月が最終利上げになったケースでは利下げ開始の2007年9月まで1年3カ月にわたり5・2

の、全体として業績へのプラス影響は軽視できない。業種・業績にもよるが、今後値上げが浸透するにつれ売上だけでなく利益面への寄与も期待出来る。長らく実感が無い事象だけに、投資家の懐疑的な見方が息の長い上昇相場につながるのではないかしら。8月24日〜26日のジャクソンホール会議あたりから新しいトレンドが始まると予想している。個別では日本製鉄（5401）三菱UFJフィナンシャルG（8306）ソフトバンクG（9984）。

## 購読会員募集中！！



デイトレ候補銘柄毎日配信！！



株式市場新聞

www.marketpress.jp





★ 頼する側は建設現場の苦境を深刻に受け止めていないフシがある。金を積みばモノができる時代は終わった。抜本的な改善策が求められる。

企業が定められている「時間外労働の上限規制」が、建設業にも適用となる。人員増強は簡単ではなく、新規制適用により工期も従来以上に長期化する可能性が高く、建設費用は更に高騰する可能性が高そうだ。

万博開催時期の延期もやむを得ないと思うが、万博以外でもマンションの大規模改修が行われ、いなど身近なところでも建設費用高騰の影響を聞く。改修の見積を見ると予想以上の高騰で「こんなに高いハズはない！」として改修に反対する住人が増えているからだ。

役人や住人など依頼する側は建設現場の苦境を深刻に受け止めていないフシがある。金を積みばモノができる時代は終わった。抜本的な改善策が求められる。

# 星野三太郎の株街往来

～深刻化する建設費用増～

2025年開催予定の大阪・関西万博のパビリオン建設が進んでいない。人手不足や鋼材などの資材高で、建設費用が高騰していることが要因とのことだ。「きつい」「汚い」「危険」の3Kから建設業に従事する人は年々減少しているが、労働環境改善を図るべく2024年4月からは一般



## New product

### イトアンド おうちで楽しむ街中華

23年秋冬新商品とリニューアル品



「大阪王将 羽根つき餃子」

「イトアンドホールディングス(2882)グループのイトアンドフーズは「大阪王将 おうちで楽しむ街中華」をコンセプトに、中華専門店「大阪王将」の味を家庭に届ける冷凍食品の新商品5品とリニューアル品9品、常温調味料のリニューアル品7品を8月から全国の量販店で販売を開始する。

「大阪王将 羽根つき餃子」は羽根が「パリッ」と焼きあがるようリニューアル。家庭でプロ級の羽根が楽しめる。また「大阪王将 羽根つき餃子」「大阪王将 ぷるもち水餃子」「大阪王将 羽根つきスタミナ肉餃子」の定番商品3品は、具材の味もリニューアル。隠し味として自家製焦がし味噌を開発、素材の味を引き立てるうまみ、香り、コクで、「大阪王将」ならではの街中華の味に仕上がっている。

イトアンドホールディングス(2882)グループのイトアンドフーズは「大阪王将

### ハウス食品 鮮烈な強い辛みがクセに

「唐がらし族」<鬼辛> 新登場!



「唐がらし族」へ鬼辛

ハウス食品グループ本社(2810)グループのハウス食品は、唐がらしブレンド製品の「唐がらし族」<鬼辛>を、8月14日からスーパーなどで発売する。

一般的な辛みの唐がらしに、辛みの強さと質にこだわりハバネロ、ジョロキア系の非常に辛みの強い唐がらしをブレンド。「唐がらし族」シリーズ史上最強の鮮烈な強い辛みがクセになる。内容量は45gで税別希望小売価格

格は400円。

これに加えて好評発売中の後味のキレのよい辛さを特徴とする「唐がらし族」<大辛>も風味とパッケージデザインをリニューアル。内容量45gで税別希望小売価格は360円。

## 潮流

## 米国株更なる上昇期待

## 予想に反し経済、企業収益は良好

marKet / bAnk



続伸した。13連騰は1987年1月以来、36年半ぶりの記録。14連騰となればダウ平均が30銘柄になった1928年以降では記録がない。

米国の決算発表も半数が終えた。ファクトセット・リサーチ・デスクによれば7月21日時点で、決算発表したS&P500構成銘柄の75%で1株利益(EPS)が市場予想を上回り、61%で売上高が市場予想を上回った。ただ、市場予想を上回った企業数や上回り率は共に5年平均を下回った。

GAFAM(グーグル:アルファベット、アマゾン、フェイスブック:メタ、アップル、マイクロソフト)、テスラ、エヌビディアといった超大型ハイテク企業の業績に対する市場の期待が高まっている一方、生成AIへの期待が過大に織り込まれている可能性には注意が必要だ。

バークレイズの試算によれば23年EPS予想は超大型ハイテク株で年初来で7%増加した一方で、超大型ハイテク株を除いたS&P500では同6%減少、超大型ハイテク株を除いたハイテクセクターでは同8%減少した。24年EPS



26日の米ダウ工業株30種平均は82ドル高の3万5520ドルと13日

利益率に対する圧力が高まっている点にも注意が必要だ。米物価指標の鈍化が鮮明になる中、コロナ禍以降のインフレ基調に乗って利益を上げてきた企業にも逆風が吹いている。賃金上昇が依然として粘り強く、景気

減速に伴って需要が鈍化し在庫が増加している。価格決定力を維持できなくなった企業も目立ち始めた。テスラはその一例だ。とはいえ、企業業績が予想以上に堅調となっているのは事実。金利上昇と高インフレによる景気懸念が以前から指摘されていたが、予想に反して経済が堅調である。

米連邦準備理事会(FRB)は市場の想定通り0.25%の利上げを行い、フェデラルファンド(FF)レートの誘導水準を5.25~5.50%とした。政策金利の引き下げフェーズへの移行は、まだまだ先だろうが、引き上げフェーズの終了がはっきりと確認できれば、実体経済や企業収益が良好であるため、米国株の更なる上昇が期待できる。米国株が堅調ならば、日本株にも上昇期待が高まることになる。

潮流銘柄はシグマクス・ホールディングス(6088)、日本紙パルプ商事(8032)、平田機工(6258)。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール  
1999年2月日本初  
の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

# 政策金利引上げは終了



敏腕先物ディーラー

# ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約454円高と4週ぶりに週足陽線となった。「中銀ウイーク」だった先週は市場の予想通りFRBが0・25%、ECBも0・25%の利上げを行った。日銀も金融緩和は続けるが、長期金利を1%まで容認する



日銀ショックにはならなかった(日銀本店)

方針を発表した。これらの方針変更も市場ではある程度予想されていたことではあるが、場中にでるとやはりアルゴリズム取引が動きを大きくする。金曜日は下げ幅が一時800円を超えるなど今年一番の下げ幅となったが、引けてみれば前日比131円安まで戻しており「日銀ショック」とはなら

# イベント通過 で上昇期待! 3万3000円台を狙う

なかった。  
金曜日には先物で3万2000円まで売られたが、大台を割らずに戻しており、この3万2000円が当面の下値として機能しそうである。NYダウも1987年以来の13連騰を記録するなど海外も「中銀ウイーク」のイベントを無難にこなして上値を狙う状況となっている。

NYダウの週足チャート



なのだ。  
物価上昇が鮮明になってきてい

もう一つ注目されていた日本の最低賃金は全国平均で1002円と初めて1000円台に乗って来た。増加額は41円と過去最大となった。だが、依然先進国の中では日本の最低賃金は最下位でオーストラリア(約2230円)の半分以下、お隣の韓国(約1085円)よりも低い状況

る昨今、労働者の大幅な所得増なしでは日本経済は再び失速しかねない。継続的な大幅増額を期待しない。

たい。  
今週は国内では大きなイベントは無く、8月4日の米7月雇用統計に注目は集まろう。国内は四半期決算発表のピークを迎えるため、個別物色の動きが強まりそうである。

日経225先物日足チャート



(ハチロク)

# 記者の視点 相場見通し

## 為替の落ち着きが鍵

### 日銀ショックの余韻は？

7月最終週の  
中銀ウィークは  
FOMCは無事  
通過したものの、  
東京市場は日銀金融政策決  
定会合の結果発表を受けて  
波乱の動きになった。

27日大引け後のナイト  
セッションでは日経先物で  
3万3000円を超える上  
昇になっていったが、深夜2  
時頃の日本経済新聞電子版  
で「日銀、金利操作を柔軟  
運用 上限0.5%超え容  
認案」と報じたことで一転  
売り優勢の動きとなった。  
27日12時過ぎの結果発  
表後は一時戻す動きもあ



にを物1と「5下幅の期が  
実対国0し、%0は変金利長  
施象債年、」を・上動利長  
なっ

### 今週のスケジュール

- 31日 6月商業動態統計、6月鉱工業生産  
7月消費動向調査  
中国7月コンポジットPMI、中国7月製  
造業PMI、中国7月非製造業PMI
- 1日 6月失業率・有効求人倍率  
中国7月Caixin製造業PMI  
米6月JOLTS求人件数、米7月ISM製  
造業景況指数
- 2日 6月15・16日開催の日銀金融政策決定  
会合議事要旨  
7月マネーストック  
米7月ADP雇用統計
- 3日 英金融政策委員会  
米7月ISM非製造業景況指数
- 4日 米7月雇用統計
- 7日 7月27・28日開催の日銀金融政策決定  
会合の「主な意見」  
6月景気動向指数
- 8日 6月家計調査  
7月景気ウォッチャー調査  
中国7月貿易収支  
米6月貿易収支
- 9日 7月マネーストック  
中国7月生産者物価、中国7月消費者  
物価
- 10日 7月国内企業物価  
米7月消費者物価
- 11日 米7月生産者物価  
米8月ミシガン大学消費者マインド  
指数

中銀ウィークが通過する  
ことで落ち着きを取り戻す  
展開を期待したいが、今回  
の日銀金融政策決定会合を  
受けて為替は1ドル138  
円台央まで円高となった。  
為替が落ち着きを取り戻す  
までは下値不安が付きま

うことになろう。  
今週は海外では8月1日  
に米7月ISM製造業景況  
指数、2日にADP雇用統  
計、3日に米7月ISM非  
製造業景況指数、4日に米  
7月雇用統計が発表され、  
これら内容次第では次回F  
OMCでの利上げ動向に思  
惑が働こう。

国内では31日に6月鉱  
工業生産、1日の6月失業  
率・有効求人倍率あたり。  
個別では31日の第一三共  
京セラ、パナソニック、村  
田製作所、8月1日に三井  
物産、ニチレイ、2日にイ  
ビデン、三菱ケミカル、3  
日の任天堂など主要企業の  
第1四半期決算の内容が注  
目されよう。

### 編集後記

梅雨明け以降、猛烈な暑  
さが続いている。28日に  
は今年最多の25.1地点で  
猛暑日になり、過去最多の  
40道府県で熱中症警戒  
アラートが発せられた。正  
に命にかかわる暑さで今年  
で91歳になる母はエアコ  
ンをつけた部屋にいるにも  
かかわらず、体調を崩して  
しまった。病院で点滴を打  
って事なきを得たが、8月  
上旬には10年に1度の暑  
さになるらしく注意が必要。  
週末の東京市場は日銀政  
策を巡り波乱ながら、引け  
にかけ戻し大事には至らな  
かった。事前のアナウンス  
メント効果があつたと思

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。